



AA日本ニュースレター

AA 日本ゼネラル・サービス・ミーティング・文書委員会
TEL03-3590-5377 171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橋ビル 9F

100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916

No. 31

第3回日本ゼネラルサービスミーティング開催

テーマ

《今なにが必要か・サービスという遺産》
グループ・地区・地域・日本でのサービスの環

北は北海道から南は九州までの全国の地域から選出された地域評議員18名、ワールドサービスミーティング評議員2名、オフィス幹事5名、全国オフィススタッフ15名のほかに、書記局の方々やサービスに関心をもつオブザーバー参加のメンバーが一堂に会し、それぞれの地域の抱える問題点や、それぞれの立場上での問題、これからの日本のAAのために今何ができるか、又何をなすべきかを討議する日本ゼネラルサービスミーティングが、11月22・23・24日の3日間にわたって、東京深川のホテルB & Gで開催された。

このミーティングも回を重ねて3回目となるのですから、開会の前からそちらこちらで再会を喜ぶ歓声が上がリ、肩を抱き合い握手を交わすそれぞれの顔や声の発する熱気は、瞬く間に会場を埋め尽くすのでした。

始まりはいかにもこのミーティングらしくテーマを『私の責任』としたオープン、ミーティングングでした。指名された仲間が次々と壇上に上がり、それぞれの思いや考えを話す間に時間はあっという間に過ぎてしまい、すぐに昼食です。

ここでも又、お互いの無事を喜ぶ言葉が渦巻き、長旅の疲れをいやすのに十分な親睦を図ることができていたように思います。

食事が終わればすぐに討議が始まります。歓迎のあいさつをJ S Oの林氏が行い、引き続き全国それぞれの地域評議員が問題提起という形で話をし、休憩を挟んで全国各地からの地域現状報告を聞くという、寸分の時間を借しむようなミーティングが夕食後までも続きます。

休憩時間には、その話をした仲間質問をする他の地域の評議員がいたり、またその意見とは別の見解を持つ仲間かとの意見交換があったりと、誰もが、

今日本のAAに必要なものは何なのか、自分たちのやり方は間違えていないだろうか、もっと効率よくメッセージを運ぶ方法はないだろうか、本当に真剣になって話し合っている姿からは、やはり日本のAAも着実に成長の道を歩んでいるということが、実感として伝わってきます。

会議が終わったのは夜10時を過ぎてしまったというのに、それぞれの部屋に戻ってもまだ話し合いを続けているという仲間がいるのも、AAならではのことだと思います。

翌日も同じく朝9時から夜の9時まで、それぞれの細分化されたテーマに基づいての話し合いです。

この中では、他のプログラムとの同時進行という形を取りましたが、全国各地のオフィススタッフがそれぞれの抱える問題について話し合うミーティングももたれました。

誰もが、サービスについて真剣に考え、どのようにしたら『まだ苦しんでいる仲間たち』のもとへメッセージが運べるかというテーマを一丸となって検討していました。

採択事項一覧

AA 20周年記念集会について

1. 開催地 立候補したのは関東地域のみで、協議の結果満場一致で採決。

2. 運営について

主催	全国AAグループ
運営母体	実行委員会を設置
事務局	J S O
集会推進委員	全国地域評議員
実施企画書立案	事務局
企画検討	第4回G S M

3. 「AA20年の歩み」発刊について

発行準備室	JSO
資料収集	JSO業務で行う
編集企画立案	準備室スタッフ
スタッフの構成	準備室に一任
企画書提出	第4回GSM

出版基本金の管理運営について

1. 出版基本金『特別献金のお願い』内容の確認
2. 運用と管理 JSO
3. 監査 日本GSM財務委員会

地域での献金フォーラム開催推進について

1. 各地域の地域評議員が推進し『献金フォーラム』を開催すること。
2. JSOの仕事を理解してもらうために『JSOリーフレット』を用意すること。
3. AAのサービス活動になぜ『献金』が必要なのかを説明出来る資料を財務委員会が作成する事

GSMの地域分担金について

1. 地域評議員1名につき50,000円に改定

GSM事務局設置について

1. GSM開催実施責任をJSOに一任
2. JSOは事務局委員を任命
3. 事務局委員は3名の開催責任者で構成
4. 構成メンバーをJSOスタッフ1名とボランティア2名とすること

第4回GSM開催時期について

1. 開催時期を繰り上げること
2. 開催日の設定については事務局が立案
3. 各地域評議員の意見を考慮に入れて決定する事

地域評議員の地域定足数の改定について

1. 地域割については第4回GSMで検討
2. 定足数についても同じ
3. 改定の草案をGSM事務局で検討(ネットワーク委員会とで行う)

BO 916の新体制について

1. 発行責任をGSMよりJSOに移行
2. 運営はオフィス幹事会が責任をもち、オフィス幹事会より委員長を任命
3. 編集委員会は9名のメンバーで構成

一緒にやろうメダルについて

新しくくる仲間とのコミュニケーションを大切に
するためにとの提案

1. 作成することに同意
2. 費用についてはJSO会計で予算化する

3. 作成時期についてはJSOに一任
メッセージの黙読カード作成について

1. 作成することに同意
2. 費用についてはJSOに一任
3. 作成時期についてはJSOに一任

12のステップ録音テープ作成について

1. GSMとしては作成しない
2. 地域、地区、グループレベルで作成する必要がある場合、「作成責任を明示すること」「アノニマスの説明を必ずテープに収めること」を遵守すること

AAポスターの作成について

1. 現在のポスターの掲示をAAメンバーに呼びかけることを評議員が行う
2. 現在のポスターの再版は行わない
3. 現在のポスターの半分のサイズで作成予定
4. 作成は現在のポスターがなくなったときにAAグループとミーティングの違いについて『AAグループとは』

1. 本人が二人以上で始めるなら妥当であろう
2. 本人であること、AAの伝統を遵守していること、自立していること、が確認された
3. 苦しんでいる仲間メッセージを運んでいることも大切な要素、だと確認された

JSOの1992年の予算について

1. 事業計画書、予算案ともに承認

AA書籍の頒布についての改定

1. 従来グループ10%引きを改め、通常価格で頒布すること
2. セントラルオフィス20%引きは従来どおり
3. セントラルオフィスがメンバーに頒布する場合は通常価格を上限とすること
4. 従来10冊にたいして1冊のサービスは変更しないこと

誕生メダル価格改定について

1. ワンデーから9カ月までのメダルを1枚200円から250円に改定すること
2. 1年以上のメダルを1枚550円から600円に改定すること
3. ラッフルチケットが印刷コストの上昇で、1枚10円から18円とすること

§ 時期等はオフィス幹事会に一任

(オフィス幹事会はこれを受け、上記改定についての文書を全国のグループに送り、情報徹底の期間を考慮し、実施は1992年3月1日よりと決定した)

AAのサービス委員を選ぶ人について

1. 選挙権者を代議員とすることを原則とすること
2. 選挙の性質によって、代議員の他に選挙権者が生じた場合の基準については「AAサービスマニュアル」を参考とし、集会に出席したメンバーが同意した方法で行うものとし、次の会議の懸案事項とすること
3. 改選、定足数、正副制を取る場合の任期責任、任期、選出時期、当選ライン、選挙の公示、選挙手順についてはネットワーク委員の提案(以下)を参考として実施し、次回に検討すること。

提案

1. 集会という呼び名について
グループのサービスを委任する委員を選ぶための集会を地域集会と呼ぶこと
2. 委員会という呼び名について
グループのサービスを地域レベルで行う活動を

委任された委員で構成された集会を地域委員会と呼ぶこと。

WSM評議員派遣費用について

1. 評議員2名の派遣費用はJ S Oの一般会計予算に400,000円計上
2. 各地域での報告会開催費用について
全国のグループメンバーに『特別献金』を呼びかけて行う。
『特別献金』の依頼についてはG S M事務局が責任を持って実施する。
『特別献金』の内容は、旅費交通費とする。
『特別献金』の目標達成額の積算は事務局が行う。

『特別献金』の開始時期については事務局で検討し、文書によって依頼する。

§以上採択、同意事項を列挙いたしましたが、詳細については1992年2月発行予定の報告書及び地元評議員による報告会で報告致します。

北陸風信

発刊半年を迎えて



『北陸風信』もお陰様で第6号を発行することができました。今年夏の創刊号以来の半年間を振り返ってみますと、その有り様たるやまさに千鳥足の歩みではなかったろうかと思われます。

常習的な原稿不足に悩まされ、毎月23日から25日には仕上がらなければならないのに、(紙上では月末発行となっている)全く真っ白けというのが何回もありましたし、今からも続いて行くのではないかという不安が、いつも胸の中に鉛のような重さで鎮座しています。反対に原稿が集まり過ぎて、どう配列したらよいかと頭を絞り、従来4頁のものを6頁にする場合もあり、ハイヤーパワーの悪戯に編集部はいつも翻弄されっぱなしです。『北陸風信』と書いて『きたぐにかぜだより』ともしも振り仮名がなかったら読める人は殆どいないでしょう。北陸地方に住むAAの仲間同志のコミュニケーションを増進したい、また関係者や家族の方に、私たちアルコール中毒者が、何を考え、

何を思っているかを少しでも解ってもらいたい、そのために小さな道具として新聞という形で何かが出来ないうらうか、という願いで出発したのですが、まず最初の関門は新聞の名称を決めることでした。

いろいろな候補が出たのですが、この目的からして、『北陸風信』(きたのくにのかぜのたより)というのが最終的に残り、編集長(といっても編集長兼割り付け係兼何でも屋)の独断と偏見で「の」が2回も出てくるのは長ったらしくて間延びがしているという理由で『きたぐにかぜだより』最終的に決定したというのがその経緯です。

ネームは決まったが、後は何とかなるだろうという気持ちで出発してるので、創刊号は2頁で刊行、第2号から5ミーティングの予定表を最終ページに入れてやっと4頁になりました。

そのうちに関係者の方とお会いする機会があって『風信』の綴じ代の件で提案を頂き、従来B4を二つ

に折りB5サイズとし、折った所を綴じ代とするように様式を変更しました。初めはどうして作るうかと思っただのですが、やり始めると意外に簡単で、今はこの様式が固定化しています。

仲間からの寄稿もぼつぼつ紙面を賑わすようになって来て、最初のころはグループ名と作者のニックネームを明記していたのですが、そのうちに仲間の記事には作者名を記入しないことになりました。

一挙にこの行動に出るのにはいささか抵抗を感じたのですが、考えてみれば私たちが酒をやめたときには、次第次第に少しずつやめるなんて芸当はとも出来なかった訳で、今となれば思い切った手術をしてよかったと思っています。

最初のころはイベントに参加しての感想的なものが多かったのですが、最近になり遠方の仲間から随筆的なものが寄せられるようになり、紙面にバラエティが出て来ました。

又、先月号からは関係者の方の原稿が寄せられ心から感謝しております。現在執筆をお願いしている方も数名おられ、お願いをしますと大変快く引き受けてくださり、こんなちっちゃな風信にも理解を示して頂けるのかと、皆様のアルコール中毒者に対する心の広さに本当に感激してしまいます。

原稿を頂いたときの嬉しさは何とも言えないもので、風信を作っていて一番『やっていて良かった』と思える瞬間です。いろいろな方に寄稿して頂き中身のあるものにして行けたら良いなと心から願っております。

イベントの案内も載せるようにしていますが、大抵はBOX916のをそのまま転用させてもらうケースが多いのですが、選択に迷う場合には、出来るだけ仲間の参加し易い近距離のものを優先するようにしています。

コピーの終わった風信は出来るだけ多くの仲間配るのは勿論、県内の保健所や病院(精神病院を中心として)に手渡しと郵送で届けています。

アルコールの問題を手掛けていくくださる担当の

方は特にご理解が深く、「風信を発行すること、また発行し続けることは仲間の連帯を深めるためにとても有意義なことだと思いますよ。今後ご健闘を祈っています」というお言葉を頂きましたし、発行部数の問題や配布先については『石川県内ではAAは断酒会に較べ、今一つ行政や他の機関には浸透が薄いようですね...。そういう意味ではアルコール中毒者は精神病院に限らず一般病院にもいるわけで、普通の病院にももっともっと『風信』を届けてAAというのを知ってもらうことが大切だと思いますよ。広報というか、そういうことも考えて行かなければねえ...。その手段として『風信』もいいのじゃないの』という意見をうけたまわって、勇気百倍、頑張らなくっちゃあ、と熱くなっているのは、我ながら病気だなあと思っと思っています。

自分一人の力では何も出来ないのであって、仲間とハイパーパワーに助けられて、一号、一号発行を重ねるしかないと自分に言い聞かせております。

いずれにしる原稿不足です。どんな原稿も拒みませんし大歓迎です。皆様からのお便りをお待ちしております。

AAの未来に対する

われわれの責任...

共同の福利を第一にすること

共同体の一体性を守ること

われわれとこれからやって来る仲間の命がかかっているのだから



左記、3種類のサービスマークを日本AAアルコールクス・アノニマスーは、商標法改正に備え、発行する文書に積極的に使っています。各グループでも、案内状、議事録等にAAの文書であることを明確にするため、積極的に使用下さることをお願い致します。